

第28回高知女子大学看護学会報告

高知女子大学看護学部創設50周年記念事業

看護援助の効果を明らかにする －看護の「わざ」と「知恵」の開発を目指して－

中 野 綾 美*

第28回高知女子大学看護学会が、2002年7月27日（土）・28日（日）、山崎美恵子学会長のもと、『看護援助の効果を明らかにする－看護の「わざ」と「知恵」の開発を目指して－』をテーマに、高知県ふくし交流プラザで開催された。参加者は総勢346名であり、学会員をはじめ、準会員、一般参加者を含め、多くの地域の看護職者や看護学生の参加が得られ、盛会の内に無事開催することができた。

当日のプログラムは、山崎美恵子会長の挨拶

に始まり、高知女子大学副学長吉野公喜氏の来賓挨拶の後、4題の研究発表が行われた。午後には、兵庫県立看護大学長・日本看護協会会長 南裕子氏による講演会「21世紀における看護職の役割」が開催された。学会2日目（28日）は、7題の研究発表が行われた。午後には、シンポジウム『看護援助の効果を明らかにする－看護の「わざ」「知恵」の開発を目指して－』が行われた後に、第28回高知女子大学看護学会総会が開催された。

学会長挨拶 一高知女子大学看護学部創設50周年を祝して一

山崎美恵子学会長より、今年の第28回高知女子大学看護学会は、高知女子大学看護学科50周年記念事業の一つとして位置づけ、大変意義ある記念すべき学会であることが述べられた。高知女子大学看護学会が、高知女子大学看護学科30周年記念事業のひとつとして開催されたこと、初代会長和井兼尾先生が「看護とは何か」を問い続けて、必死の努力を続けて創設時の理念を貫き、看護学科、看護学会を育て続けてこられた歴史が紹介され

た。

この記念すべき学会の講演会の講師をお引き受けくださった、南裕子先生、シンポジウムをご担当頂いた、池川清子先生・中山洋子先生・荻野雅先生、惣万佳代子先生、豊田邦江先生に感謝の意が述べられた。

また、学会の準備のために学会運営委員の皆様をはじめ、学内外の方々のご支援ご協力を賜ったことに対する感謝の意が述べられた。



*高知女子大学看護学会企画委員長

来賓挨拶 —21世紀の看護に期待—

来賓の高知女子大学副学長吉野公喜氏より、高知女子大学看護学部創設50周年記念事業として、第28回高知女子大学看護学会が開催されたことにお祝いと感謝の意が述べられた。

21世紀は共存の社会から肝要の社会に脱皮する時代でありと考えられるが、そのような時代にあって、看護学は中核となる学問であり、高い理論と優れた技術を持った看護職者が今後益々求められてくるであろうと、看護の可能性と看護への期待が述べられた。



講演会

21世紀における看護職の役割

兵庫県立看護大学長・日本看護協会会長 南裕子氏に「21世紀における看護職の役割」というテーマにて講演をいただいた。参加者は、南氏の講演に引き込まれるように聞き入っていた。

講演会では、グローバリゼーションから宇宙の時代へ、人間と他の生物、環境との関係の転換、人と人、人と社会の関わり方の転換という、21世紀の新しい時代を迎え、看護が、この流れをどのように受け止め、社会の動きの中で、何を考えどのように取り組んでいくかが重要であることが語られた。保健医療福祉については、“救命中心医療からQOL志向へ”“病気—治療から健康増進へ”“福祉措置から自立志向の保険へ”“専門家中心から利用者中心へ”とパラダイム・シフトしており、これを支えていく上で情報開示と自己決定が重要であり、患者・住民・国民が十分な情報を得た上で自分で決定することのできる仕組みづくりが求められていることが語られた。このような新しい時代の中で、“市民感覚を生かす看護”“市民の力を強めるサービス”“他分野との連帯・共生”“真の専門家としての看護力”“災害に備える体制づくり”“看

兵庫県立看護大学長

日本看護協会会長 南 裕 子 氏



護学の発展を促す環境づくり”など、看護を変革していくことが課題であること、さらに21世紀に向けて、看護の相談機能を充実すること—まちの保健室構想—、看取り医療のあり方—看護職の看取り—、政策決定の場への参加という新たな提案を提示していただいた。

社会の動きの中で、看護職として何をすべきかの示唆と、看護の可能性を語ってくださり、課題に取り組んでいく勇気とエネルギーを我々聴衆に与えて下さった。

シンポジウム

看護援助の効果を明らかにする

－看護の「わざ」と「知恵」の開発を目指して－

座 長

池川 清子（神戸市看護大学学長）

シンポジスト

中山 洋子（福島県立医科大学看護学部長）

荻野 雅（千葉大学看護学部講師）

惣万佳代子（NPO法人デイサービス

このゆびと〜まれ 代表）

豊田 邦江（特定医療法人仁生会細木病院
がん看護CNS）

池川清子座長のもとに、4名のシンポジストの方々から、看護の「わざ」と「知恵」とは何か、看護援助の意味と効果、保健・医療・福祉サービスにおける看護ケアの意味と役割についてお話しいただき、その後フロアとの交流を行った。3時間30分という長時間のシンポジウムであったが、参加者は、シンポジストの各々の立場からの発言に引き込まれるように聞き入っていた。シンポジストとフロアとの交流も活発になされた。

荻野氏は、博士課程で学んだ後にCNSとして精神科専門病院で看護を実践された立場から、精神科看護における「わざ」と「知恵」についてお話しいただいた。豊田氏は、がん看護CNSとして、がん患者と家族と関わる日々の実践を振り返り、がん看護における「わざ」と「知恵」について、お話しいただいた。惣万氏は、「富山方式」と言われている、老人から子どもまですべての年齢を対象にしたデイケアの実践をご紹介いただき、ユニークな地域に密着した実践活動の中から看護の「わざ」と「知恵」について、お話しいただいた。中山氏は、看護師のエキスパートネスの発達について研究を積み重ねてこられた立場から、看護における「わざ」と「知」の創造についてお話しいただいた。中山氏は、「看護におけ



るInteractive Knowledge-Creatingのモデル」を提示し、このモデルを用いて、看護実践の中に潜んでいる看護の「わざ」「知恵」を紹介して、他者と共有できる「知」を生み出していくことについて語っていただいた。

シンポジウムを通して、私たち看護者が、看護現象をひとつひとつ大切に問い返し、看護という営みの中に蓄積されている「わざ」と「知恵」を抽出し、最終的に理論化していくことが課題であるということを、参加者とともに確認することができた。

研究演題発表

| |
|---|
| 1. 田野町における高齢者生活健康づくり調査報告～社会的交流と食生活について 山下亜紀・広末ゆか・西村理恵：田野町役場 松本女里・時長美希・森下安子：高知女子大学 |
| 2. 看護職員の転倒事故防止に対する観察・予防策実施の実態 太田節・中原佐苗・小橋あゆみ・豊田邦江・野口信：特定医療法人仁生会細木病院 |
| 3. 結核患者を抱える家族のストレスの認知と対処行動 本村美恵・森沢美代・藤田雅子・松本恵理子：高知市立市民病院 |
| 4. 老人患者が捉える精神的安楽 鍵山由佳里・井上緑：土佐市民病院 浪上静香：須崎くろしお病院 中越早智：高北病院 渡辺隆江：幡多けんみん病院 古舘美奈：大井田病院 |
| 5. 看護者の看護実践能力に関する研究－課業別の特性に焦点を当てて－ 武藤雅子：高知女子大学看護学研究科 岩田明子：東京医科歯科大学付属病院 大浦祥子：岡山大学教育学部養護教諭特別学科 橋本和佳：東京女子医大付属病院 横手暁江：神奈川県立循環器呼吸器センター 山田覚：高知女子大学 |
| 6. 分娩体験をした褥婦による発見 竹原舞里・酒井教子：高知赤十字病院 水窪たかね |
| 7. 看護者が期待するCNSの役割と今後の課題 川上理子・嶋岡暢希・宮田留理・山田覚・森下安子・東郷淳子・比村容林・福田亜紀・ 野嶋佐由美：高知女子大学 |
| 8. 育児をしている母親の母乳に関する評価 嶋岡暢希：高知女子大学 岸田佐智 |
| 9. 精神分裂病者の服薬の体験 知名めぐみ・小原亜紗子：高知医科大学医学部附属病院 高橋真紀子 山崎浩子：医療法人近森会近森病院第二分院 吉本麻里：長谷川病院 |
| 10. 血液透析者の自己実現 大谷敦子：国立循環器病センター 楠田直子：元高知医科大学医学部附属病院 鈴木佐江子：県西部浜松医療センター 谷井彩子：兵庫県立リハビリテーションセンター中央病院 |
| 11. 心臓手術を受けた患者の体験の分析 鎌倉雪枝・楠瀬明子・古谷美智代・宮脇桂子・黒岩郁子・大沢たか子：高知市立市民病院 |